

① 腎生検で使用されることの多い静脈麻酔薬 

薬剤名	特徴	用量・用法
ケタミン	呼吸抑制が少なく、鎮痛作用もあるため小児の侵襲的な気管支喘息の患者にも使用できる。作用時間は5~10分と短い。	初回投与量1~2 mg/kgを静注し、適宜0.5~1 mg/kgを追加投与する。
ミダゾラム	呼吸抑制が少なく鎮静催眠作用がある。血中半減期は0.8~1.8時間で、気道閉塞やアナフィラキシーショックがみられることがあり注意が必要。	初回投与量0.05~0.1 mg/kgを静注し、必要に応じてその半量を追加する。
ペンタゾシン	オピオイド部分受容体作動薬に分類される非麻薬性鎮痛薬。半減期が3~4時間と比較的長い。	0.5~1.5 mg/kg(最大15 mg)を投与する。
チオペンタール チアミラール	代謝が早く覚醒も早い。ヒスタミン遊離作用があるため、重症気管支喘息患者には禁忌となる。	4~6 mg/kgの静注が用いられ、状態に応じて0.5~2 mg/kgを追加投与する。
プロポフォール	催眠作用が主体で鎮痛作用はほとんどない。血圧にほとんど影響せず、術後の制吐作用が強い。肝・腎機能障害を有する患者にも使用できる。	3歳未満3~5 mg/kg、3歳以上2.5~3 mg/kgを初回投与する。5~15分で覚醒するため、適宜0.5 mg/kgを追加投与する。